



説林

遊戯の方針

町田則文

私は昨年以來本會に入會をして居りまして平常は大變御無沙汰を致して居りましたですが、今日此會の方から何か話があるならばせよと云ふ御話でござりまして、甚だ不束な事でござりますが一應豫ねて私が考へて居ります事に就て御話をして見たい、且それに加へるに外國の教育雜誌に記載しある種々の學者の説を引出した事もあり

ますので、如何にも話が錯雜を致すかも知れませぬが、暫時御清聴を煩はしたひと云ふ願であります。

それで私が只今御話を仕たいと云ふのは遊戯の方針、即ち遊戯を子供に課するに就ての方針と云ふ問題に就て御話をして見たいと云ふ考へであります。それに就きまして全体ならば此遊戯の種類等に關係しまして種々自分から材料を集めてそれに依りて問題を説きませねば本當に説く事が出来ぬと考へます、併ながら幸ひに近頃北亞米利加合衆國の某教育雜誌を見ますと、其事實を集めたものが大變ありまして、多少其等は私の申す所の一の證據になる事と考へまして、實際上の材料は姑くそれに倣ひましてそうして御話をしたいと云ふ考へであります、それ故に私が

希望する所は、若し此話が果して宜いとすれば、諸君方に於いて平常兒童に御課しになつて居る遊戯に就きまして段々御研究を願ひましたならば、大變仕合せと考へます。

一体幼稚園の仕事と申すのは矢張此ズツと小學校から中學校とか高等女學校とを通じて普通教育の範圍内に屬する所の初段の仕事でありますので、即ち此普通教育を濟んで仕舞へば、段々専門の事に涉りますから、それは別問題であります。が兎に角人間を作る事業、即ち普通教育に於て人間を作る事でありましたならば、幼稚園の仕事は其一番の初階級であると考へる、それ故に幼稚園に於ては能く將來の事を考へ小學校なり、中學校なり、高等女學校なりの事を考へて其引續きの一番初めの事であると云ふ考へを幼稚園に於ては持

つと云ふ事か保育上第一番であると平常考へて居るそれに就てはドウ云ふ目的を大体に就てもつたならば宜からうと、云ふと、私は大体の方針に就ては矢張二つある事と考へますのであります。一は他日世の中に出て職務を執る一の準備をすること云ふ事と、モウ一つは一般の訓育、即ち人間の人品を高尙にするとか、風彩を段々貴くするとか、即ち人間の品格を作ると云ふやうな目的と此二つの目的が矢張幼稚園にもあらう、又小學校でもあらう、中學校でもあらうと斯う云ふ風に考へて居ります。其所で他日世の中に出て仕事を執ると云ふ私の意味は世の中に出て恐ろしくドウも土方とか職工とか云ふやうなものが執る所のさう云ふ極端の仕事と云ふ意味のみでない、廣い意味の仕事である、幼稚園なり學校に於て唯職業的人を拵

へると云ふ事になると、随分狭く考へますと非難ある事で、私の家はさういふものでない、さう云ふ唯苦役を取るやうなものでないと云ふ非難が動もすればあるけれども、私が申す他日世の中の職業を執ると云ふは苦しい所の仕事を執れと云ふ意味でない、人間と云ふものは何にしても職業と云ふものを執らねばならぬ、人間が世の中に出て唯人品が高い、又風彩威望が如何にも立派であるとか、種々なものを知つて居ると云ふだけでは、世の中の人間となるには足らぬと思ふドウしても仕事をやる處の人間を作らねばならぬ。ところが今日の一体の情況を見ますると云ふと兎角人品を作るとか、智識を拵へるとか云ふ方では世の中が餘程其方に一般の傾きを有つて居りますけれども、其職業を執ると云ふ他日世の中に出て職業を執る

と云ふ方には今日は實際上、各學校に於て注意の配り方が乏しいと考へる、唯學校と言へば智識を與へ、人品さへ良くすれば宜いと云ふ傾きが大變ある、幼稚園に於て課する遊戲の種類も他日世の中に出て仕事をやる方の考へで、種々の遊戲を課するやうにせねばならぬと考へる、故に詰り前に云ふ通り、幼稚園に於ては二つの目的を以て保育をなすと云ふやうな事は第一にせねばならぬと考へる。

以上述べたる二目的の外に、尙ほ一つ望む所は成るべく調和的に、所謂調和的の心持を養ふにあり。子供と云ふものは、一般人類に於ける當り前の歴史發達と同じ理屈で、兎角小い時は自分勝手即ち自己心と云ふものが餘程作用を爲して居る、之を人類一般の發達から考へてもさうで、文明の

人は餘程調和的になつて居る、けれども極く未開の人民、野蠻の人民は我儘勝手である、自分さへよければ宜い、他は考へぬ、子供も同じやうなもので、ドウも幼稚の時には少しも他を顧慮せぬ、自分さへ都合宜ければ宜い、遊戯をしても自分がひとり勝を取れば宜い、自分が獨り愉快を取れば宜い、自分が獨り優等の位置を占めれば宜いと云ふ事が子供の内には流行る、それを當局者は餘程注意して行かねば我儘勝手の間人とならしむるべし。一体教育などでも昔はさう云ふやうな、唯一人々々さへ宜ければ宜いと云ふやうなやり方であつたと考へる、例へば只少數なる英雄豪傑を作れば宜い、英雄豪傑とは或る意味から言へば自分さへ宜ければ宜い、我儘勝手の間人と云ふ自己主義の極端なるものである、それを小さい時から其傾き

の多いのを、益々擣はぬで置くと云ふものであるから、我が國に於ても西洋各國に於ても、従前の教育は唯英雄豪傑を作れば宜いと云ふ事になつて居る、今日ではさうでない、ドウしても我儘勝手と云ふものを或る程度までは抑制して、さうして調和的の間人を作らねばならぬ、それに依つて考へて見ますると、幼稚園などに於て遊戯をさせるに於ても、餘程當局者は兒童の性質から研究して其邊に考へを向けて行かねば、實は幼稚園を設けて保育しても餘り利益する所が少くないであらうと思ふのであります。故にこれは餘程六ヶしい事である、之をドウすれば適當の範圍で、ドウすれば調和的發達をするかと云ふ事は、兒童の性質から起つて來ねばならぬ、兒童の性質を考へて來ねば唯押へ付けても適せぬ、即ち兎に角さう云ふやうな調和

的發達と云ふものを能く考へるやうにせねばならぬと思ひます。斯う云ふ大体の遊戯の方針を定むるに就て大体の事を一寸御話を致して置いて、それから一層詳しく申さうと云ふ考へであります。

其處で先づ此問題を説くに就ては、私は種々他方面より調べたいものであります。先づ大体三ツの方面から研究をしたいと思ふのです。と云ふは第一には子供が一体生れてからして即ち丁年に達するまでにドウ云ふやうな發達のものであるか、と云ふ事、それから第二には一体子供は自然に任かせて置けばドウ云ふ遊戯を子供は平常好むであらう、自然の遊戯に任せばドウ云ふ事を好むと云ふ事である、漫りに大人が種々な事を考へ、大人自分の了簡で子供に課しても、子供が一向好まぬ事がある、子供の自然に任かせて置けばドウ

云ふやうな遊び方をするか、ドウ云ふ傾きを有つか、これを餘程研究する事が必要であると思ふ、

第三には、今日種々世間に傳つて居る所の遊戯の種類、大人の了簡で拵へてある、幼稚園でも種々澤山設けてあらうと思ふが、皆大人の考へで、種々の遊戯も作つてあるがそれは果して子供々の好む様に、能く當を得て居るや否や、と云ふ此三方面からして研究して見ねば判るまいと考へる、

第一に子供の發達の模様と云ふものは、種々生理學上の問題であるから、六ヶしい事であるが、大体ドウ云ふ譯であると云ふ事を考へて見ますと、先づ生れてから擽はずに置けば、無意的に足を動かしたり、手を動かしたり、身体を彼方此方に動かすは申すまでもありませぬが、さう云ふ事は子供には勿論特性である、それから非常に物真

似をする、真似ると云ふ事が非常に盛んになる、それですからして成るべくさう云ふ時期には矢張りさう云ふ傾きを執りて教員たり保母たる者は始終正しい真似方をさせて行く、それは餘程考へて見ますと、ドウも一の事柄を真似させるも一体の模様を考へるに餘り數が多過ぎて、子供に真似をさせるると云ふけれども、真似をさせる事が多過ぎて、子供が本當に真似をせぬで済むと云ふ事が今日は多く無いかと思ふ、話をするにも種々な話をする、故に子供が本當にそれを呑込まぬで仕舞ふ、至極分量を少なくして、さうして種々真似る事を本當に真似させ、さうしてそれを段々習慣に變化して行くと云ふやうな事が一番大事であらうと考へるであります、それが數が多過ぎて一時は判つたやうであれども、明日になれば他の事

をされると云ふやうになつて、本當の習慣に真似するは、本當の習慣に化して仕舞ふと云ふ事には今日は乏しくあるまいか、尙ほ言ひ換ふれば餘り分量が多過ぎてはせぬか、ドウしても子供は真似る事は無意識的事をしたり、模倣するは免れぬ事であるから、それを利用して極く正しい真似方をさせると云ふ事をせぬばならぬと思ふ。それから段々子供の種々の遊戯を見ますと、それに依つて發達の順序を考へれば、初めの内は家などに居て、即ち家庭などに居りまして、吾が家の一部の友達と遊ぶとか、或は段々それが發達して來て、遂には他の家の友達と一所に遊びに出掛けて行くとか、段々それが進んで行くと或は遠足に出掛けるとか、さう云う工合に發達して行く、故に吾々は其程度に適した種々な事を工夫して、さうして

能くそれに應ずるやうにして行く、それに就て種々事實がありませうが、これは北亞米利加合衆國の子供に就て申ますのでござりますから只御參考になると云ふだけであつて、本邦の兒童に充分適するがドウか知らぬ、斯う云ふ事實がある、子供が一番に能く種々の遊び仲間を拵へると云ふ年齢は十歳と十五歳の間に一番餘計あるのです、其間が一番子供が種々の遊びをする、泥を捏るとか、鬼取りをするとか、遊びの俱樂部を設けるは十歳と十五歳の間にある、それで米國に於いて遊びを調べて見ました所の學者があるが、百分中八十七だけは丁度それだけの年齢の者が這入つて居る、それからそれは子供が大人の方で組立てゝやらす

子供自身も種々の工夫をして居る、其工夫し居るが種々ある中に十歳から十五歳の間で拵へ

て居る、其以上になると單純になつて居る、或は遠足をするとか、或は鳥でも捕りに行くとか云ふ事になつて、遊びが極めて種類が少なくなる、一番種類の多いは十歳と十五歳の間にあると云ふ話です。それから尤も十五歳以上になると矢張段々年を取つた人が種々子供の爲めに遊びを工夫してやると云ふ事があつてドウしても年を取つた子供は其方に這入る、小さい子供は自分の工夫した遊びでなければ面白くない、さう云ふやうな譯で、兎に角十歳と十五歳の間は一番種類が多い、幼稚園なり、小學校なりて子供の遊んで居る遊戯の種類を観察して集めて統計表を作れば何歳から何歳までの間に如何なる種類が多いと云ふ事が判らうと思ふ、遊びと言つても込入つた遊びでなく、三人集まりて、鬼事をするとか、相撲をするとか或は集

つて話をするとか、物の真似事をする事もあらう、

角種々の種類は十歳と十五歳の間に自然に自

ら工夫して拵へる、さう云ふ譯であるから年を取

つたものが即ち吾々が能く勘考をして、子供の性

質に合はぬ遊びを拵へてやつても、それを子供は

面白がらぬ事であらうと思ふ、先づ是等は各幼稚

園なり、各小學校の遊びを集めて統計表を作れば、

何歳の間に如何なる種類が多いと云ふ事が判る、

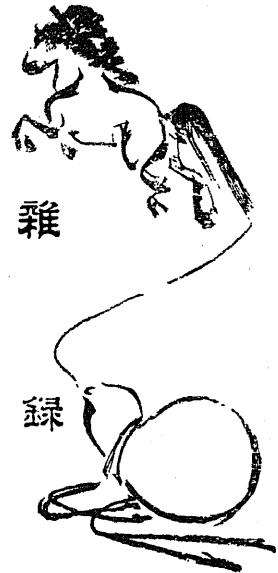
と云ふやうな事實がある。(つづく)

むさし野は月の入るべき

山もなし

草ヱリ出で、

草にこそ入れ



雜

録

江馬細香女史の詩(承前)

小林雨峯

手は次に、女史の詩數首をかゝげて、少しく女史の詩品に對して、彼の當時詩界の驍將、星巖の夫人、紅蘭女史のと比論せんと欲す、

不聞鐘響到闔扉。曉夢沈々臥翠幃。

半點燈搖斷腸雨。故將春睡送春歸。(春晝)

船燈半點夜濛濛。一枕愁眠波響中。

夢到澗山三百疊。冷風淒雨泊孤蓬。(遊澗河)